

## 162 律法学者とファリサイ派の人々を非難する No.1

マタイによる福音書 23 : 1~12、マルコ 12 : 38~40、ルカ 20 : 45~47

・・・・・・前回到続き、ニサンの月の12日（火曜日）の出来事である・・・・・・

01 それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。

02 「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。

03 だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。

しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。

04 彼らは背負いきれない重荷（→口伝律法：ミシュナ）をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。

→律法学者やファリサイ派の人々は、神に仕えるためにどのように律法に従うべきかを人々に教えた。しかし、彼らが教えた規定は一般人には守り切れないものだった。イエスは、律法学者やファリサイ派の人々は他人に規定を負わせたがるが、律法を守れるように手助けすることは全くしない、と批判している。



05 そ（→彼ら）のすることは、すべて人に（自分たちを高く）見せるためである。（額と左腕に着ける）聖句の入った小箱（→聖句箱：テフィラ tefilah、ヒラクティリー phylactery）を大きくしたり、（神に属するしるしである）衣服の房（右図の○）を長くしたりする。

→聖句箱：律法の一部を羊皮紙に書いて入れた皮製の小箱

→民数記 15 : 38b

代々にわたって、衣服の四隅に房を縫い付け、その房に青い（→ロイヤルカラー）ひもを付けさせなさい（→織り込みなさい）。



06 宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、

07 また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。

08 だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は（イエス・キリスト）一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。

### 【一言】先生は福沢諭吉のみ

✖ 慶應義塾では、通常、先生（教授）を呼ぶとき、「○○先生」とは呼ばずに「君付け」する。これは慶應義塾がもともと、創設者の福沢諭吉だけが先生として発足し、教職員や学生はすべて福沢諭吉の門下生なので、平等に「君付け」で呼ぶ風習が残っている [参考：[慶應義塾豆百科] No.18 [君\(くん\)](#)]。

### 【川柳】先生と呼ばれる(or 言われる)ほどの馬鹿でなし

先生と呼ばれていい気になっているが、呼んでいる方は本当に尊敬しているとは限らない、人におだてられて得意になるものではない、という意味の川柳（17字の風刺短詩）です。

09 また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。

10 『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。

11 あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。

12 だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

【参考】 聖句箱 テフィリン Tefillin

▶聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをしるしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい（申命記 6：4～9）。

▶聖句箱（テフィリン）はユダヤ教において、祈りの時に身に着ける聖句が入った小箱です。13歳の成人式（バル・ミツバ）を終えたユダヤの成人男子は、平日の朝の祈禱時にテフィリンを着用して祈ります。

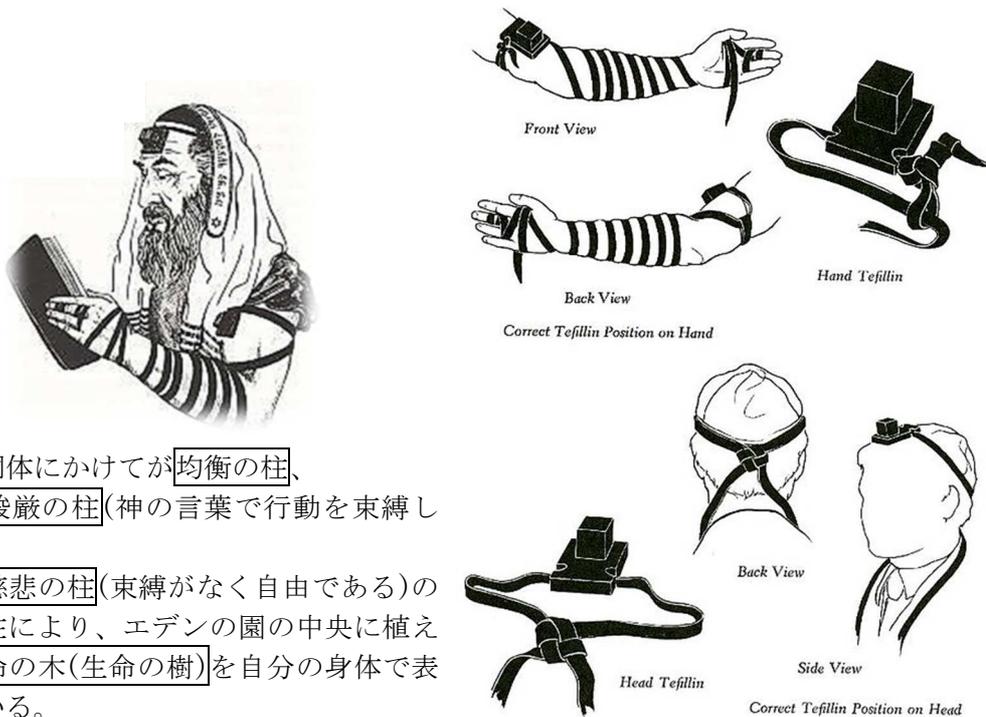
「テフィリン」とは「祈り」を意味するヘブライ語の「テフィラー」に由来し、「祈りの帯」を意味します。聖句を身に着ける習慣は、上記、申命記 6：8 に基づいています。

→13歳になった男児がバル・ミツバ、12歳になった女児がバット・ミツバと呼ばれる。ミツバとはユダヤ教の戒律のことで、戒律を守ることが出来る年齢が成人だとされる。ただし、ここでの「成人」という言葉は、結婚可能とか、生計を立てられるとか、選挙権があるという意味で使われるのではなく、神の前に戒律を守る、すなわち、自分の行為で許されることと許されないことを認識し、自分の行動に責任を持てる年齢に達したという意味での「成人」とされている。ユダヤ教の儀式として、13歳になった男子はシナゴグ（ユダヤ教会）で初めて聖書を朗読する（この日に、ユダヤ教徒として数に加えられる）。

▶聖句箱（テフィリン）には①頭のテフィリン（テフィリン・シェル・ローシュ）と②手のテフィリン（テフィリン・シェル・ヤド）の二つがあり、頭につける黒い小箱のテフィリンの中には、①出エジプト記 13：1～10、②同 13：11～16、③申命記 6：4～9、④同 11：13～21 の聖句が記された4枚の羊皮紙がたたんで収められています。

▶聖句箱（テフィリン）の底部には黒い革紐がついており、この革紐を額の中央と左腕の内側とに巻きつけ、小箱を身体に固定します。手のテフィリン（テフィリン・シェル・ヤド）の革紐は左腕に7廻り、中指に3廻り巻き付けます。

▶聖句箱（テフィリン）は週日の祈禱時に着用されます。安息日に着用しないのは、安息日はそれ自体が「しるし」である（出エジプト 31：17）ため、着用の必要がないとされています。



頭から胴体にかけてが**均衡の柱**、  
左腕が**峻厳の柱**（神の言葉で行動を束縛している）、  
右腕が**慈悲の柱**（束縛がなく自由である）の  
3本の柱により、エデンの園の中央に植えられた**命の木（生命の樹）**を自分の身体で表現している。